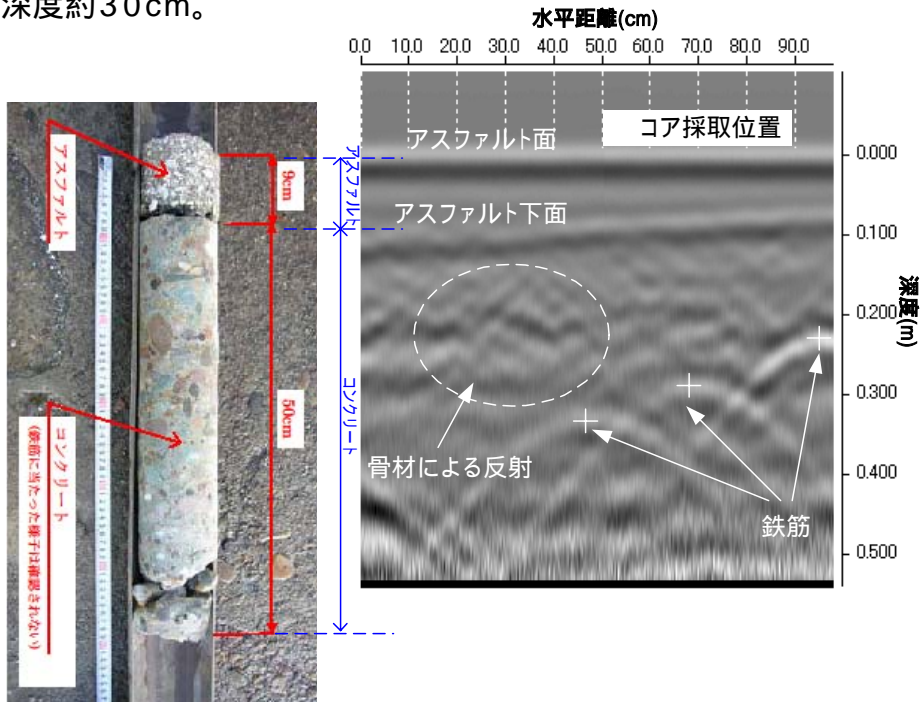


事例

コンクリート床板の鉄筋調査

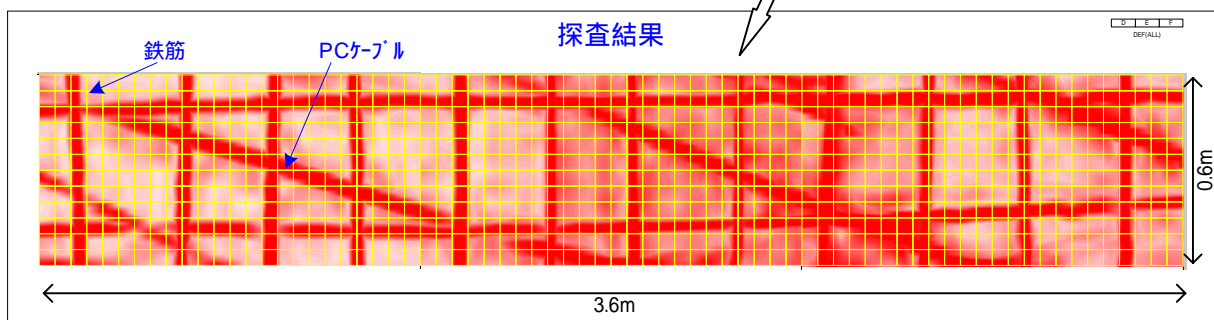
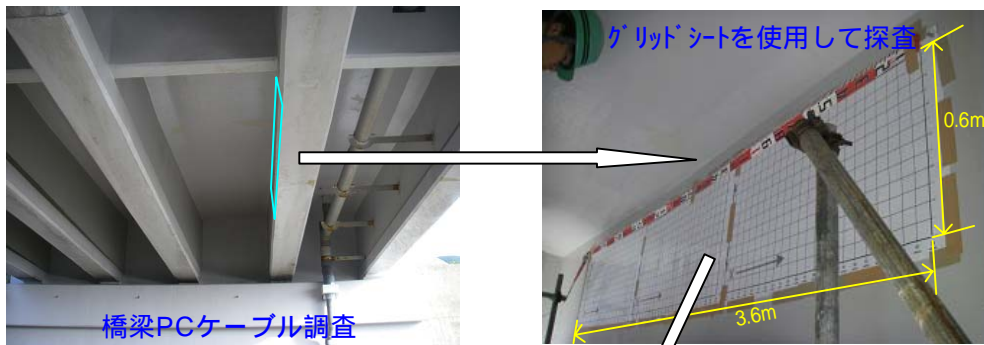
コンクリート床板内部の鉄筋をさけて調査ボーリングを行うために、鉄筋配置を調査しました。コンクリート中の鉄筋は明瞭な反射波形が得られます。探査限界深度はコンクリートの（水分）状態で異なります。通常は深度約30cm。



事例

橋梁PCケーブル調査

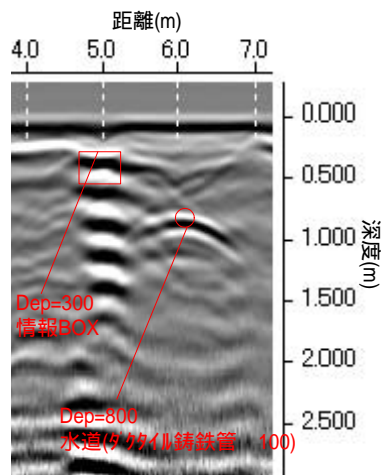
橋梁補修工事に伴い、橋梁のPCケーブルおよびコンクリート内部の鉄筋配置を調査しました。写真のようにメッシュ状に探査することで、鉄筋位置を詳細に把握することができます。



事例

道路での地下埋設管調査

国道の掘削を伴う工事において、事故防止のため掘削作業前に既設の埋設管位置を調査しました。レーダ探査結果と地表部目視、および電気、ガス、水道、光ファイバ等の埋設物資料から総合的に判断し、埋設位置や深度を特定します。



探査結果

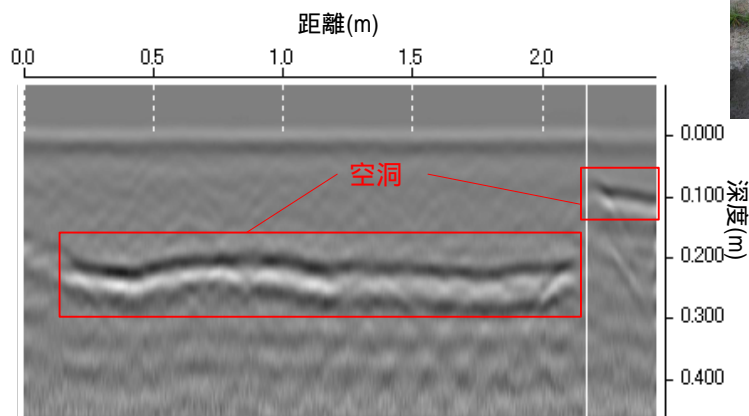


国道での埋設物探査状況

事例

河川堤防での空洞調査

築堤から長い期間が経過した堤防において、平張りコンクリート等の直下に空洞が発生していないか調査しました。レーダ探査結果と構造物の沈下状況や亀裂状況などの現地調査結果から空洞の有無を総合的に判断します。



探査結果

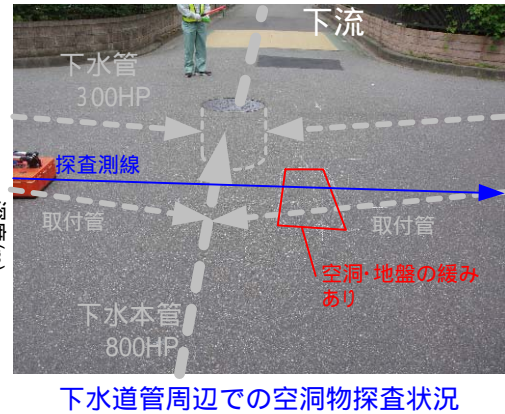
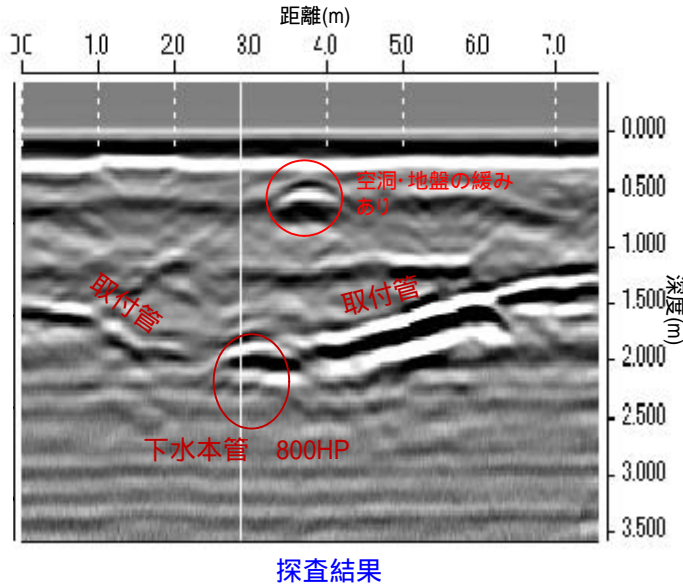


堤防での空洞物探査状況

事例

下水道管周辺での空洞調査

下水道管の周辺において、道路陥没の原因となる空洞が発生していないか調査しました。レーダ探査結果と既往資料（下水道管路図や補修履歴状況など）から空洞の有無を総合的に判断します。

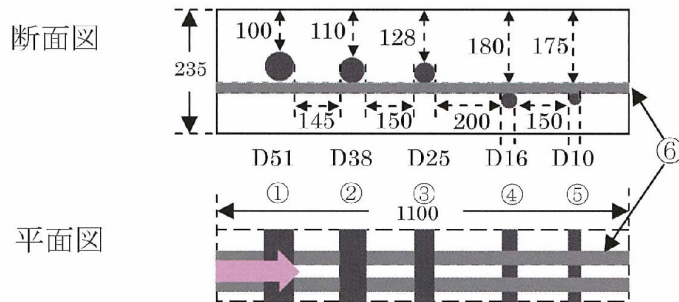


地中レーダ(SIR-3000型)の特長および従来機との比較

特長

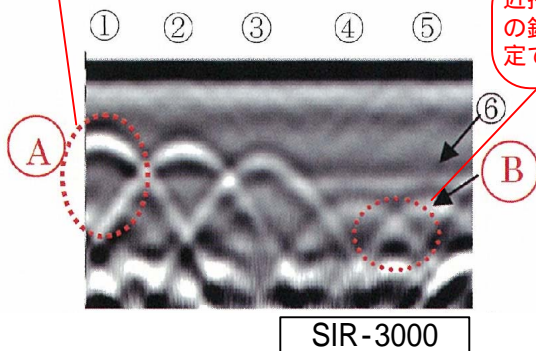
最新の処理技術により、鮮明で明瞭な画像が得られるため、探査物を明確に判定できるようになりました。

〔コンクリート試験片を使用した配筋探査比較例〕



SIR-3000では多重反射波が少なく、鉄筋を明確に判定できます。

近接する2つの鉄筋を判定できます。



従来機